

令和2年9月20日 東京祝「赤坂農場☆ゆーりあん」OPEN!!!

お野菜との出会いをきっかけに、農家さん達応援の為に大きな一歩踏み出してくださった東京のお客様、市川直美さんに、その想いをお聞きしてみました。



このお野菜たちに出逢って思うこと

カネマツさんとは2年半前「無農薬野菜を使ったお惣菜の試食会」に参加させて頂いた事が出会いです。今考えてみると、導かれているようで不思議なご縁を感じております。寺子屋に初めて参加させて頂いた時、久保田さん 渡辺さんの素晴らしいお話に感銘を受け、それをきっかけにお野菜を取り寄せさせて頂き、現在(9/20open)赤坂の地で第1、第3土曜日にお野菜と木の子の販売をさせて頂くこととなりました。

社は「ゆーりあん」次男の名前(雄裕)から一文字頂き、リアンは絆という意味です。次男が現在入所している所がリアン文京(障害者施設)です。こちらにはコロナをきっかけに愛溢れるお野菜を支援隊として届けさせて頂いております。この事がきっかけで、施設のスタッフの皆様とより深い絆となり、それが息子にも響いて皆さんが息子に「雄裕君ありがとう♡[ありがとう♡□と声をかけてくださっているとお聞きしました。涙が出るほど感動してしまい、コロナでなかなか面会出来ない中、エネルギーの高いお野菜が会えなくても繋いで頂いている事に震える思いです。まさに絆が愛ある素晴らしいお野菜だからこそ気持ちが共鳴して繋がるのだと思いました。より多くの方々にも、このお野菜と出逢って人生を変えて欲しいと願い、

これからも精進させて頂きます。OPENにあたり皆様からたくさんの真心と愛を頂き大変感謝しております。どうもありがとうございました。もしお近くにお越しの際はお立ち寄り下さい。

宜しく願い致します。

〒107-0052 東京都港区赤坂5丁目5-9 赤坂スバルビル1階 MBE 赤坂店前
ゆーりあん 代表 市川直美



「歴史と食」を学ぶ -14

10月 献上栗



松代藩では10月に塩鮭などとともに、将軍家に栗を献上していた。ご存じの「小布施栗」である。小布施栗の名称は、古くは寛永19年(1642)に記されており、真田信之が松代に移る前から藩の特産品として知られていた。

「栗御勤帳」によると、その数は将軍家へ3,000個、老中など幕府役人など96家に「御配り栗」として2万7,000個、合計3万600個にもなる。品質も、将軍家への献上栗を最上級とし、次の等級は「次大栗」として御配り御用に、その下は「升栗」で小粒の栗を升で計ったもので「御配り添え栗」や藩の御膳御用などに用いられた。栗は国元と江戸で大きさ、傷など2重に品質チェックが行われた。

真田宝物館 降幡浩樹